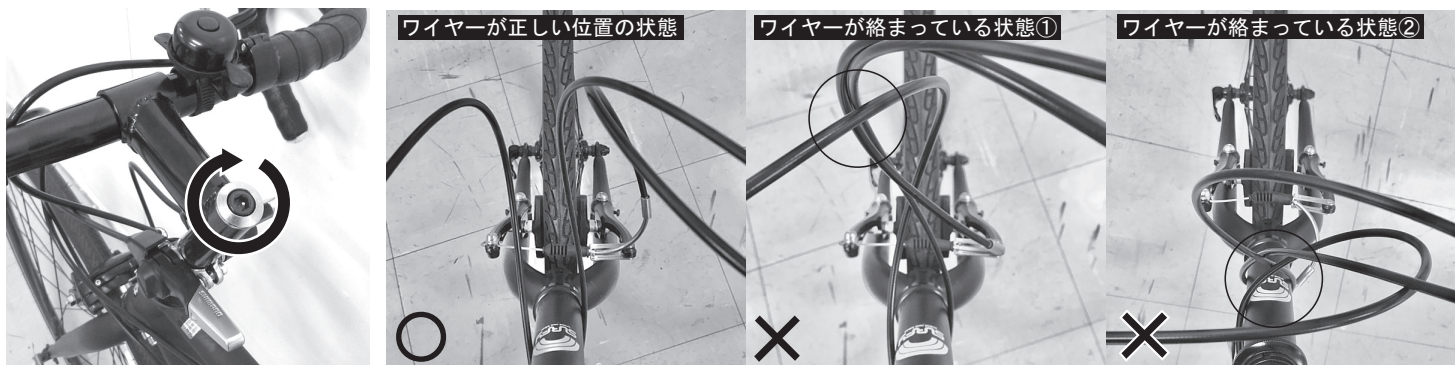




【ハンドルの取り付け】

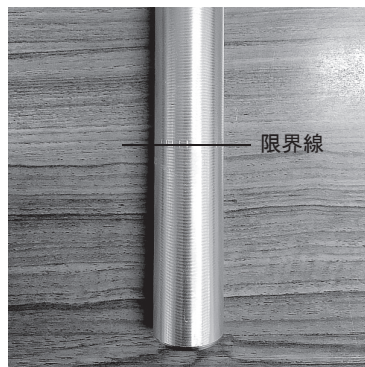


●画像を参照しブレーキやシフトのワイヤーが絡まないように注意して下さい。

ワイヤーの正しい位置を確認したらハンドルを差し込み、工具を使いハンドルをしっかり締め上げて下さい。

※限界標識の斜線が隠れるまでハンドルを差し込み、隠れる範囲で高さ調整して下さい。

【サドルの取り付け】



※新しいモデルより「シートクランプ」がレバー式からボルト式に変更となっております。

●「限界標識」の斜線がありますので隠れる範囲で高さを調整し六角レンチを使いしっかりと締め上げて下さい。

【ペダルの取り付け】



※一般的なネジとは異なり逆回し（反時計回り）で締め込みます。

●ペダルの軸の刻印で右用 (R) 左用 (L) を確認します。

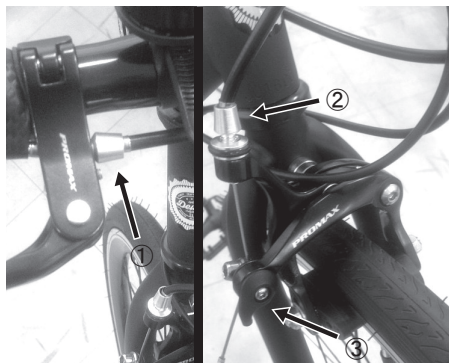
工具を使い図のように右ペダルは時計回り、左ペダルは反時計回りにしっかりと奥まで締め上げます。

※最初は手で回し、途中から工具で締めます。最初から工具で締めると角度が悪いままに締まりクランク側のネジ山が壊れる可能性がありますのでご注意下さい。

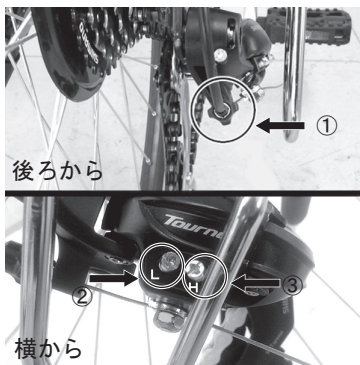
※ペダルは奥までしっかりと締めて下さい。ペダルが緩いまま乗車することでクランク側のネジ山が破損する可能性がありますのでご注意下さい。

【その他の調整】

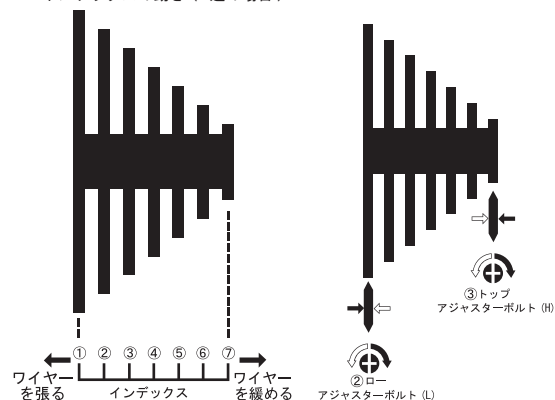
- 片方のブレーキパッドがリムに付いた状態。
- ▲ブレーキレバーの遊びの調整。など



・ギアの調整



※アジャスター①で調整した時のインデックスの動き (7速の場合)      ※アジャスターボルト②、③で調整した時のプーリーの動き



- 矢印②のアジャスターボルトで調整します。
- ※時計回りにしめるとワイヤーのテンションが弱くなり、反時計回りにゆるめるとワイヤーのテンションが強くなります。両方のブレーキパッドが均等になるよう調整下さい。
- ※+ドライバーをご用意頂きセンターリング調整ネジで微調整も可能です。
- ▲矢印①のアジャスターボルトで又は③のクイックリリースでワイヤーのテンションを調整します。
- ※①を反時計回りにゆるめるとワイヤーのテンションが高くなりブレーキレバーの遊びの部分が狭くなります。

- 【シフトワイヤーのテンションが緩い場合の症状】
- ・1速に入らない    ・小ギア→大ギアへ変わりにくい (7速から6速にチェンジしにくいなど)

- 【シフトワイヤーのテンションが強い場合症状】
- ・7速に入らない    ・大ギア→小ギアへ変わりにくい (1速から2速にチェンジしにくいなど)

- 調整方法 ①のアジャスターを反時計回りに回します。(ワイヤーを張ります)
- 調整方法 ①のアジャスターを時計回りに回します。(ワイヤーを緩めます)
- ※少しづつ (1/4 回転ほど) 回し、確認しながら調整下さい。
- ※症状によりますが、まずは①のアジャスターで調整下さい。
- ①のアジャスターで改善しない場合は②、③のアジャスターボルトをお試し下さい。

【乗る前の最終チェック】



前ブレーキが前方 (進行方向側) が正しい位置です。

- フロントフォークが前後逆に装着されていませんか？  
間違った組立のまま走行されますと事故や破損の原因にもつながりますので上記画像をご参照の上、正しく組立下さい。
- ペダルはしっかりと固定されていますか？  
ペダルの装着がゆるい状態で走行されますとネジ山の破損 (ペダルがぐらぐらになる) 原因につながります。
- 前輪クイックリリースレバーはしっかりと固定されていますか？  
ゆるすぎると脱輪の原因になります。最後にレバーを手のひらを使って締め上げる程度の力加減で締め上げて下さい。
- タイヤの空気圧は十分ですか？  
商品到着時は必ずしも十分に空気が充填されているとは限りません。  
空気圧が低いまま乗車されるとパンクの原因となりますのでご注意下さいませ。